

～追悼～

前理事長・名誉院長

故 宮田信熙先生を偲んで



平成26年12月1日、前理事長・名誉院長の宮田信熙先生が逝去されました(享年87歳)。謹んで宮田先生のご冥福をお祈りいたします。関係各位の皆様には生前のご厚情に心より感謝申し上げます。



追悼の辞

院長 山本祐司

昨年12月1日午前8時12分、宮田信熙先生の病院でのご臨終の床に接し、職員一同落胆哀愁この上なく、まことに残念でなりません。

先生は、昭和29年に岡山医科大学を卒業後、昭和30年5月に岡山大学第一外科に入局、陣内伝之助教授のご薫陶を受けられました。岡山県のいくつかの病院で勤務されたのち、昭和36年5月に外科医長として松山市民病院に赴任されました。副院長を経て昭和53年6月に院長に就任し、昭和55年6月以降は財団法人永頼会理事長職を兼任されました。在職中に永頼会館やN棟が完成し、多くの診療科が新設されるなど、卓越した指導力を持って、病院発展のために尽力されました。

また、地域の保健医療活動や地域住民の福祉向上にも寄与され、松山市救急医療対策協議会の副会長として、今日の松山医療圏の救急医療システムの構築や運用に貢献されました。平成6年1月から平成16年1月までは松山市医師

会副会長として松山市医師会の発展向上に努められました。

社会福祉活動では、昭和42年9月から財団法人永頼会松山中央乳児保育園の理事や理事長を勤められ、平成7年3月から平成23年7月までは愛媛慈善会理事として職責を果たされました。

団体の活動では、愛媛県医療機関厚生年金基金理事長、松山ロータリークラブ会長など、多くの要職に就き、その手腕を大いに発揮されました。

ここで、先生の日常の一端を思い起こしてみます。よく応接室に呼ばれて入ると、「鬼手佛心」と陣内教授が書かれた額を背に、職員を叱咤激励する毅然とした姿が今でも脳裏に浮かびます。「いや!」と話の途中、頑として語られる口癖が今では、とても懐かしく思い出されます。

一方、病棟回診の合間には、好きな冷たい砂糖水を婦長に所望し、職員らに「ほう

か!ほうか!」と相槌を打ち、嬉々として談笑する姿もよく見受けられ、強さと優しさの両面を垣間見る日常でした。

こうして先生が生前に残された数々の功績を顧みると、改めて畏敬の念を抱き、感謝申し上げます。今後も職員一同、一致協力し松山市民病院の一層の発展と地域医療への貢献に努力してまいります。

宮田信熙先生、どうか安らかに眠りください。御霊の心からのご冥福を祈りつつ、深い哀惜の思いを込めてお別れの言葉といたします。

合掌

陣内伝之助教授が書かれた額



宮田信熙先生略歴

昭和3年4月	愛媛県宇和島生まれ	昭和32年3月	岡山大学第一外科副手
昭和19年3月	旧制宇和島中学校4年修了	昭和34年5月	玉野赤十字病院外科部長
昭和20年8月	海軍兵学校2年修了(第76期)	昭和36年5月	財団法人永頼会松山市民病院外科医長
昭和25年3月	旧制松山高等学校卒業	昭和38年9月	財団法人永頼会松山市民病院副院長
昭和29年3月	岡山医科大学卒業	昭和53年6月	財団法人永頼会松山市民病院院長
昭和29年4月	日立造船株式会社向島病院にて実地修練	昭和55年6月	財団法人永頼会松山市民病院理事長
昭和30年5月	岡山大学第一外科(陣内外科入局)	平成21年7月	財団法人永頼会松山市民病院名誉院長
昭和30年10月	日立造船株式会社向島病院外科勤務		(現在、一般財団法人永頼会)
昭和31年6月	岡山県英田郡大原町立病院外科医長		